

ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

105号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話 (095) 844-9922 FAX (095) 814-0056
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 十七年度はこのような事業を実施してまいります
- 高い志と地道な努力
ー中央アジア非核兵器条約採択

- 祈念館だより
- 晩翠児童賞「和田さんの言葉」
- 最近のニュースから
- お知らせ

日本は戦争が終わって
58年になるけど、
その分戦争の事を
忘れかけていると思う。
だけど忘れていいはずがない。
だからこそ
今の平和を捨ててはいけない。
あの刻だって、
捨てていい命なんて
無かったのだから。

(平和情報コーナーメッセージより)



■国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館・平和情報コーナーでは、来館者がパソコンを使い簡単な操作で、平和へのメッセージや絵を書き残すことができます。これまでに、多くの方々が平和への願いや思いを残しています。

十七年度は

このような事業を

実施してまいります

三月八日(火)と二十九日(火)の両日、評議員会、理事会が開催され、十七年度の事業計画・予算案が承認されました。
本年度は被爆六十周年記念事業として、レトロ電車での被爆体験講話、被爆前・被爆後のナガサキ原爆写真展、県内原爆展、被爆体験継承を考えるシンポジウムを開催します。また、昨年度に育成を始めた平和案内人の派遣事業を開始します。

I 一般事業

1 発刊事業

(1) 会報「へいわ」

協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きをとらえ、会員に情報を提供するともに、会員相互の連携を図ります。

(2) ブックレット「ナガサキ平和のあゆみ」

当協会の設立趣旨やこの一年の取り組み、活動状況等をまとめたものです。

(3) 広報活動費

インターネットの活用等により、協会活動の周知を図ります。

2 啓発事業

(1) 被爆体験講話の実施

被爆体験の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小・中学生などに被爆体験講話を実施します。

(2) ピースネットの実施

東日本(北陸、中部、東海地方を含む)・県内離島・沖縄県内の小中学生に対し、テレビ会議システムによる平和学習を実施します。

(3) 講演会等の開催

被爆六十周年を記念し、平和問題への認識を深めるため、講演会を開催します。

(4) 国連軍縮週間行事

国際平和と文化の国際年を記念し

た国連軍縮週間(10/24~10/30)に「市民のつどい」を実施し、若い人たちが参加しやすい催しを行います。

(5) 六十周年記念事業

被爆六十周年を記念し、記念事業を実施します。

ア レトロ電車での被爆体験講話
イ 被爆前・被爆後のナガサキ原爆写真展

ウ 県内原爆展の開催

エ 被爆体験継承を考えるシンポジウムの開催

3 調査研究事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムなどに出席し、情報収集や関係機関との交流を図ります。

4 育成事業

(1) 部会活動

会員が市民とともに、平和意識の高揚を図るための活動を行います。
(継承部会、写真資料調査部会、国際交流部会、音楽部会)

(2) アジア青年平和交流事業

日本の若者とアジア諸国の若者が、お互いの国を訪問し、文化・歴史を

学び、現地の人々との意見交換や交流を通して、相互理解を促進し平和意識の向上を図ります。

(3) ボランティアの活動支援

平和活動の担い手となる学生ボランティア及び外国語ボランティアなどの活動支援を行い、平和認識の視点や観点を醸成します。



▲平和案内人・碑めぐり発表会(12月23日)

平成17年度収支予算

■収入

(単位:千円)

	科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
一般会計	基本財産運用収入	15	30	△15
	会 費 収 入	4,150	3,935	215
	補 助 金 収 入	31,737	32,444	△707
	寄 付 金 収 入	1	1	0
	基本財産収入	1	1	0
	繰 入 金 収 入	1,500	1,500	0
	雑 収 入	1	1	0
	一般会計合計	37,405	37,912	△507
特別会計	受 託 事 業	313,329	360,711	△47,382
	収 益 事 業	23,000	25,000	△2,000
	特別会計合計	336,329	385,711	△49,382
収 入 合 計		373,734	423,623	△49,889

■支出

	科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
一般会計	(1)発 刊 事 業	2,799	3,957	△1,158
	(2)啓 発 事 業	3,930	2,700	1,230
	(3)調査研究事業	200	200	0
	(4)育 成 事 業	6,199	6,673	△474
	(5)推進対策事業	727	927	△200
	管理運営事務	23,549	23,454	95
	基本財産預金	1	1	0
	一般会計合計	37,405	37,912	△507
特別会計	受 託 事 業	313,329	360,711	△47,382
	収 益 事 業	23,000	25,000	△2,000
	特別会計合計	336,329	385,711	△49,382
収 入 合 計		373,734	423,623	△49,889

(4) 平和事業への支援
協会の活動趣旨と一致する音楽会や講演会、シンポジウム及び外国人弁論大会などの活動を助成し、平和事業を推進します。

(5) 秋月グラント
被爆体験の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ助成します。

(6) 平和案内人の育成
高齢化している被爆者の被爆体験を継承し、被爆建造物や資料館等のガイドができる平和案内人を育成することにより、地元長崎の人たちや修学旅行生等の原爆・平和に対する理解を深め、被爆の実相を広く後世へ伝えます。

(7) 平和案内人の派遣事業
昨年度から実施している平和案内

人育成講座の修了者を、主に観光客を対象とした碑めぐりや資料館、祈念館等の案内ガイドとして、派遣します。

II 受託事業
長崎市や国から委託を受けて次の事業も行います。
1 長崎原爆資料館観覧料収納・受付業務
2 長崎原爆資料館図書資料整理業務

III 収益事業
原爆・平和に関する図書や平和意識啓発普及のための物品などの販売を長崎原爆資料館の図書販売コーナーで行います。

3 (仮称) 青少年平和交流事業
4 ヒロシマ・ナガサキ原爆展事業
5 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

高い志と地道な努力 —中央アジア非核兵器条約採択

国連アジア太平洋平和軍縮センター所長

石栗 勉



序 文

1、国連は、広島、長崎被爆の前に創設された。歳月を経て、その人類史上特筆すべき出来事が60周年を迎える。被爆後60年間、核軍縮は遅々として進まず、核の拡散、闇市、テロリストによる核取得可能性が現実の脅威となる中で、いかにして核不拡散体制を堅持するかが今日問われている。そうした厳しい状況下にあるが、本稿では核軍縮分野における唯一明るいニュースについて述べてみたい。

中央アジア5カ国は、ウズベキスタンの首都タシケントにおいて、中央アジア非核兵器条約を採択し、これに全権を委任された代表が仮署名した。NPT再検討会議を5月に控え、5カ国による核軍縮、不拡散への具体的貢献として高く評価したい。当初から条約交渉を主導してきたものとして大変嬉しいことであった。

3、「非核兵器地帯」とは、特定地域に属する核拡散防止条約(NPT)下の非核兵器国が、核兵器の開発、生産、保有、貯蔵、また他国の核兵器の領土内展開を認めないなどにつき条約本体で決め、これに対して核兵器国が条約の付属議定書で核兵器の使用または使用の威嚇を行わない旨(「消極的安全保障」)を誓約するものだ。

4、条約の締約国としては、域内の国々が上記約束を守ることで相互信頼に繋がる。また、5核兵器国から、核を使用しない旨の法的保障を得ることになる。核兵器国から見ると、核の使用範囲が狭くな

り、従って核兵器国は非核兵器地帯を好まない。現在、ラテンアメリカ、カリビアン、南太平洋、南東アジア、アフリカに非核兵器地帯が存在する。

5、中央アジア非核兵器地帯に関し、5カ国は2002年9月、ウズベキスタンのサマルカンドで条約案に合意した。然るに英、米、仏の3核兵器国が条文に問題ありとして多くの修正案を出したため、その時点では署名に至らなかった(中国、ロシアは賛成)。それ以降、5カ国は、3核兵器国、国際原子力機関、国連法務部などからの修正、勧告を検討し、一般の条約採択に至ったものだ。

6、条約は前文と18条の本体、付属議定書からなり次のような特徴を有する。

- (イ) 北半球で初の、内陸国(海を含まず)で構成される初の地帯
- (ロ) 旧核兵器国(カザクスタン)を含む
- (ハ) 環境重視(核実験で汚染された領土の浄化)

核兵器国の反応

7、今回の条約採択に対して、英、米、仏の3核兵器国は、早速に抗議を行った。

- (イ) 条約本体に対して様々な修正案を出したが回答がない
- (ロ) NPTは様々な挑戦を受けている。NPTの一体性保持が最優先課題で、非核兵器地帯設置の時期にあらず
- (ハ) 核兵器国の支持を得られない非核兵器条約は無意味だ
- (ニ) 条約に根本的な問題があり受け入れられない
- (ホ) 非核兵器地帯設置に関する原則では、5カ国は3国と協議する義務があり、3国の修正を受け入れるべきだ
- (ヘ) 5カ国が3国の要請を無視するならば、公的な場で恥をか

中央アジア 非核兵器地帯条約の採択

2、本年2月8日、カザクスタン、キルギスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、ウズベキスタンの

く（NPT再検討会議や国連第一委員会での非難や反対投票）。上記のように非核兵器地帯を好まない核兵器国の威圧的な素顔を見せた感じである。

5カ国による今後の対応

8、条約の本体は、5カ国に属する。核兵器国は「消極的安全保障」に関わる付属議定書の締約国だ。5カ国は2003年協議を行い、3国の修正案は、取捨何れにせよ検討済みである。3国は、条約本体がいやなら議定書に署名しなければよい。3国は、非核兵器国が核兵器国と協議する原則を挙げている。そもそも非核兵器地帯設置の第一原則は「域内国の自由な発意で設置」で、第3者の圧力、干渉、威嚇とは無縁なはずである。3国はやってはならないことを強調している。

アジア太平洋 平和軍縮センターの支援

9、非核兵器地帯条約は、域内の国々の自由な発意に基づき、自ら条約起草を行うものだ。中央アジア諸国が、非核兵器地帯構想を発表した1997年は、独立して5年、

政治、経済、社会体制の移行期で、非常に困難な時期であった。そこで、条約起草の技術、専門知識が不足しているとして、異例のことながら、国連の支援を求めた。部内調整で私のセンターが支援することになった（私が担当）。

10、5カ国はそれまで、モスクワとのみ糸で結ばれていた。それが突然切れて、隣人を発見したためか、横の連絡を著しく欠いていた。例えば、中央アジア非核兵器地帯に関する国連決議案を作るにあたり、起案国のウズベキスタンはカザクスタンとロシアには相談したが、残り3カ国には締め切り直前に見せるといった具合である。私は、コーヒープレーク会合を設け、5カ国を定期的に同じテーブルに着け、対話の習慣を作ることから始めた。起草にあたっては、条文案提示、資料作成、関連機関との調整にあたった。非核兵器地帯設置が目的ながら地域のコミュニティ作りにも貢献したように思う。今回の条約正式採択は7年余、待ちに待った成果であり、5カ国と共に心から祝いたい。

11、5カ国は、タシケントで条約採択に伴い共同宣言を発表した。ここでは、条約の早期署名と、「条

約実施」（起草ではない）に当たっての核兵器国の協力を求めている。5カ国は非核兵器地帯設置の志を高く持ち、7年余にわたり地道な努力をしてきた。一説では本年7月とも言われる署名式が待ち望まれるところである。

後書き

12、核兵器国がNPT条約成立時の5から8になり（インド、イスラエル、パキスタン）イラク、リビアの大量破壊兵器計画が顕在化した。イランの核疑惑も依然として十分解明されていない。核の先制使用政策は残り、一部では新たな核開発も検討されている由。被爆60周年で多少の核軍縮の進展を喜ぶべきところ、大変難しい時代を迎えた。NPTを中心とする核不拡散体制は、新たな脅威に十分対応できるように改善されるべきだ。

13、イランは核計画の実態を明らかにし、非核兵器国としてNPTを厳格に遵守すべきだ。北朝鮮については、国際社会は、核不拡散体制維持の見地から、非遵守、脱退を非難し、NPT復帰を求める義務がある。NPT脱退を難しくする、迅速、詳細な検証を定めた追加議定書加入増も含め、国際原子

力機関の機能強化も重要だ。テロリストなど非国家団体への大量破壊兵器及び運搬手段の拡散防止に関する国連安保理決議1540の実施、PSI（大量破壊兵器拡散防止構想）の推進、核物質や技術の核兵器用転用阻止のための核燃料サイクルの吟味も重要だ。そして何よりも既存の核兵器削減が必要だ。核の闇市は実態を解明し、根絶しなければならぬ。広島、長崎の悲劇を無視した机上の空論からは何も生まれない。被爆ということ、その人的側面、人類史上の悲劇も広く語られるべきだ。5月のNPT再検討会議が、核廃絶への道筋を明確に示し、具体的措置、提案の検討、合意、実施に当たっての効果的な協力の場となることを切望する。過去5年軍縮分野でさしたる動きもない中で、中央アジア非核兵器地帯条約採択は久々の快挙と言えよう。国際社会は、これを歓迎し、早期署名を積極的に後押しすべきだ。



祈念館 だより

長崎・広島 追悼平和祈念館2館合同事業

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が開館してから3年目を迎える今年、被爆60周年という記念すべき年でもあります。

長崎追悼平和祈念館では、これを機に広島追悼平和祈念館と合同事業として「被爆60周年広島・長崎特別企画展」の開催を予定しています。

被爆者やその家族、友人が書き、両祈念館が収集した被爆体験記を中心に、手記や両館に登録された原爆死没者の遺影などを活用し、原爆被害者の全体像に迫る特別企画展にしようというものです。

長崎の追悼平和祈念館は、原爆死没者の名簿を安置し、遺影収集事業もさることながら、被爆医療の国際協力事業の紹介など、広島祈念館とは性格を異にしながらも、共通する遺影収集などをとおして企画を進めています。

開催期間は今年の7月から9月までの3か月間。会場は祈念館内の交流ラウンジの予定です。

原爆死没者の遺影と

体験をお寄せください。

いよいよ今年は、被爆60周年を迎え

ます。そんな中、原爆の実相と平和への願いを後代に伝えていくために「被爆資料・遺影・体験記」を全国に呼びかけて募集しています。昨年7月に募集を始め、2月末現在で284件の遺影と44件の被爆体験記が寄せられました。

今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。期間：平成18年3月31日まで。応募方法：電話で、お持ちの資料の内容をお伝えください。送付手続きをご案内します。問い合わせ先：被爆資料：長崎原爆資料館（電話095-844-1231）、遺影・体験記：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（電話095-814-0055）

寄せられた体験記の一部をご紹介します。

「今でも、私の体には、背負っていた子どもの影だけを残し、後はケロイドが全部残っています」

（被爆時年齢32歳、女）

「父が倒壊した家屋の前の空き地に枯れ木を集め、自家火葬し、私も頭蓋骨を箸で潰して骨壺に入れました」

（被爆時年齢8歳、男）



寄せられた体験記

平和案内人スタート！

被爆体験の継承を目的とし、平成16年から育成をすすめてきた平和案内人が、ついに被爆60周年目の今年4月、活動を開始します。

平和案内人育成講座は、被爆建造物や原爆資料館等のガイドを通して原爆の惨禍と平和の尊さを伝えることができる人材を育成することを目的として昨年5月25日に開講しました。被爆体験講話や継承部会碑めぐり班による碑めぐり解説など、被爆者から直接学ぶ講義をはじめ、原子爆弾の原理に代表される専門的な講義など全18回の講義を経て9月28日に講座を修了した受講生は、その後約5ヶ月間にわたり碑めぐりや長崎原爆資料館内展示の解説についての自主研修を行い、さらに知識と技術の向上に努めています。

平和案内人第2期生募集

今年も平和案内人育成講座を開講します。今年是被爆60周年、この機会に平和活動を始めてみませんか。

○講座期間：6月11日(土)

10月25日(火) (予定)

月3回程度、全16回。講座は火曜日18時30分～20時、土曜日13時～16時。

※火曜のみ、土曜のみの受講は不可

○場所：長崎原爆資料館 平和学習室

○応募資格：満18才以上。講座の終了後、当協会の会員として登録し、

来年1月からの平和案内人活動（ボランティア）に参加できる方。

○応募締切：4月30日(土) 必着

○応募方法：会報へいわ同封の申込用紙に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでご応募ください。

○お申し込み・お問い合わせ：（財）長崎平和推進協会

〒852-8117

長崎市平野町7-8

電話：095(844)9922

FAX：095(814)0056

ホームページ：http://www.peace-wing.or.jp/

平和案内人一同、慣れないながらも誠実かつ正確な案内に努めてまい

りますので、温かく見守っていただけたら幸いです。また、お知り合いなどが長崎を訪れる機会がありましたら、ぜひ平和案内人をご利用ください。

往復の交通費として平和案内人1名につき1,000円を、利用される方々からいただきます。

平和案内人一同、慣れないながらも誠実かつ正確な案内に努めてまい

りますので、温かく見守っていただけたら幸いです。また、お知り合いなどが長崎を訪れる機会がありましたら、ぜひ平和案内人をご利用ください。

往復の交通費として平和案内人1名につき1,000円を、利用される方々からいただきます。

平和案内人一同、慣れないながらも誠実かつ正確な案内に努めてまい

りますので、温かく見守っていただけたら幸いです。また、お知り合いなどが長崎を訪れる機会がありましたら、ぜひ平和案内人をご利用ください。

往復の交通費として平和案内人1名につき1,000円を、利用される方々からいただきます。

最近のニュースから

◆12月10日（金）

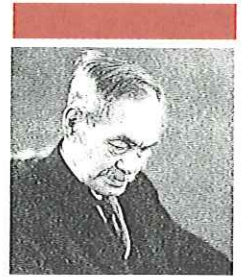
「新防衛計画大綱」を策定

昨年12月10日、9年ぶりに、わが国の防衛計画大綱が改められました。米ソ冷戦終結後10年以上が経過し国際情勢が大きく変化する中で、テロなどの新たな脅威や多様な事態に対応するためとのことです。しかし、私達が注目しなければならないのは「核兵器の脅威に対しては、米国の核の抑止力に依存する。」という部分です。この内容は大綱が生まれた1976年以来一貫しており、これが「核の傘」と言われるものです。わが国は非核三原則を国是として核武装こそしていないものの、実は核超大国アメリカの核兵器で守ってもらっているというわけです。かつてインドは長崎市長の核実験抗議に対して「どこかの国には核の傘があるが、インドにはないのだから・・・」と反論しました。今回、防衛計画大綱の改訂に当たって、日本がアメリカの核兵器に依存しているということを問題視する報道や論議は全くみられませんでしたが、核兵器廃絶を願っているあなたは、このことをどのように考えますか。

◆2月10日（木）

北朝鮮「核兵器製造」を表明

サッカーの世界カップアジア地区予選で日朝両国が熱戦を繰り広げた直後の2月10日、北朝鮮は「核兵器を製造した。核問題を巡る6か国協議への参加も無期限中断する。」と表明しました。かねてからの同国の姿勢に、真意をいぶかる見方もありました。しかし、パキスタンやイランへのミサイル輸出の見返りとしてカウラン濃縮用の遠心分離装置を大量に購入したり、実験炉の使用済み燃料棒から既にプルトニウムを取り出しているとの観測もあり、核兵器の燃料となる核物質をある程度持っていると思われています。ただし、核兵器を造りあげるにはミサイルで運べるまでに核弾頭を小型化し、核実験による信頼性の確認も必要だと言われています。しかも同国のミサイルは兵器としては旧式の液体燃料方式とのことで、「核兵器製造」にはまだ程遠いという見方が強いようです。一方では「国内の反体制運動など内憂から強迫的な動きに出るかもしれない、周辺国が冷静さを失った時に本当の危機が始まる。」といった解説も見られました。



故 土井 晩翠 (1871~1952年)

晩翠児童賞

「和田さんの言葉」

宮城県気仙沼市立鹿折小学校六年

千葉 未来さん

島崎藤村や魯迅など多くの文学者を輩出してきた仙台市が、近代詩に大きな業績を残した土井晩翠（代表作詩・荒城の月）を称え、1959年（昭和34年）「晩翠賞」と「晩翠児童賞」を制定し、毎年その選考会が開かれています。応募作品は毎回1000点以上に達しているそうです。

今回紹介する作品は、第45回晩翠児童賞を受賞した、気仙沼市立鹿折（シシオリ）小学校6年（受賞当時）の千葉未来さんの作品です。

千葉さんは、一昨年仙台市と長崎市・当協会が主催した「県外原爆展」開催のおり、継承部会長の和田耕一氏の被爆体験を聞いた時の印象を詩にまとめました。

私たちは知らなかった

原爆のことを知らなかった

おそろしさも苦しさも悲しさも

何一つ知らなかった

私たちは出会った

長崎で被爆した和田さんに

七十六歳

ふつうのおじいさんだった

静かな口調

おだやかで

でもさびしそうな顔

和田さんは語った

原爆とはどのようなのかを

それは予想以上にひどかった

かけがえのない命を

たった一発の原子爆弾でうばった

和田さんは語った

学徒動員で

いっしょに電車で運転手をしていた

田中さんのこと

ピカで

真っ黒になった田中さんが

つぶやいた言葉

ナニモシテイナイ

オレハナニモシテイナイ……

和田さんは後になってその意味を知った

オレハナニモシテイナイ

ナノニナゼコンナメニアウノカ

ナゼコンナフウニシンディクノカ

田中さんの無念を

和田さんは心に刻んだ

和田さんは語った

たった十三歳で

電車の車掌をしていた

ハルさんのこと

小学校を卒業したばかりなのに

死んでしまった

ハルさんの無念を

和田さんは心に刻んだ

私たちは和田さんの言葉を

心に刻もう

そしてかけがえのない命を大切に

生きて行こう

（「作文宮城」五十二号）

会員・市民に大好評

吉村作治講演会

本協会が毎年開催している講演会に、今回は皆さんもよくご存知の考古学研究者吉村作治さんを招き、永く遠い歴史から見た平和の尊さを語っていただきました。



昨年の12月18日(土)午後3時30分、会場となった長崎市平和会館ホ

ールは、招待の会員約200名のほか、抽選で好運を勝ち取った約400名と合わせて満席となりました。

講演の中で、もつとも感慨深かったのは、軍隊を持たず平和な時代が続いたエジプトで、侵略に対抗するために持った軍隊が、やはり他国を侵略するために使用されるはめになつてしまったという事実でした。

講演終了後は、多くの方から、「分かりやすかった」「エジプトに興味を持った」等の感想をいただき、また会員の方からも「来年も楽しみにしています」という声を聞き、今後の行事に大いに反映させていきたいと考えています。

追悼平和祈念館の地上部・

水盤の夜間開放のお知らせ

追悼平和祈念館の開館時間は、午前8時30分から午後5時30分(5月～8月は午後6時30分)ですが、地上部の水盤は、日没後、約1時間程、開放しています。

直径約29メートルの水盤から放たれる約7万個の光ファイバーの明かりは、1945年12月末までの原爆で亡くなられた人々の数を象徴して

いますが、閉館時間後もこの明かりを鑑賞することができますよう次の時間、開放しておりますので、皆さんも是非、一度ご覧ください。

(地上部・水盤 夜間開放時間)
3月～4月 午後8時
5月～9月 午後8時30分
10月～2月 午後7時

会費納入のお願い

当協会は官民一体となって、平和を維持するための各種事業に取り組んでいます。

皆様から納入いただいている会費は、被爆60周年記念事業をはじめ、会報「へいわ」の発行や「平和案内人」の育成などを行うための重要な財源です。

どうか、会費が協会の活動を大きく支えていることをご理解いただき、今年度まだ納入されていない方は、郵便局でお払い込みいただきますようよろしくお願いいたします。

ご寄附ありがとうございます

ございました

- ・長崎ピースラリー実行委員会 (三万円)
- ・葉山利行 (二万円)
- ・田中麗子 (二万円)
- ・広島県相互扶助会 (五万円)
- ・中間南小学校六年生 (八千七百六十七円)

会員募集

戦後、60年の経過とともに、当然ながら被爆者の高齢化に伴い、被爆体験の風化が懸念されており、被爆地長崎の使命として、平和であることの尊さを啓発、推進していくために、一人でも多くの賛同者を募っております。

現在、会員である皆様に身近なところから、お一人ずつでもご紹介いただき、輪を広げたいと思います。事務局にご一報いただければ、申込書等を郵送させていただきますのでよろしく願います。

会員数報告

維持会員 1,286名
賛助会員 129名
臨時会員 9名
学生会員 7名
合計 1,431名

平成17年3月7日現在

